

第303回 番組審議会

1. 日 時 令和3年 7月 13日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING
4F「メトロポリタンホール南」
3. 委 員 委員総数 8名
出席委員数 7名

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)
近藤 一英 (副委員長)
—以下50音順—
石田 征広
佐々木 泰司
平野 順子
八木橋 伸之
渡邊 佳隆

○ 会社側出席者

齋藤 秋水 (代表取締役社長)
高嶋 昇 (常務取締役)
一戸 俊行 (取締役)
君澤 温 (取締役総務局長)
工藤 哲人 (岩手めんこいテレビ報道番組部副部長)

○ 事務局

近谷 利政
岩渕 博美

4. 議題 「ふるさとの山に向かひてグッド・バイ
～大友啓史が語る！石川啄木と太宰治～」

放送日時：令和3年6月19日（土）

14：30～15：25

5. 議事概要

今回は、6月19日（土）に放送された『ふるさとの山に向かひてグッド・バイ～大友啓史が語る！石川啄木と太宰治～』について審議しました。

●岩手めんこいテレビ報道番組部工藤からの説明

・めんこいテレビ開局30周年にふさわしい番組にしたいと、これまで放送してきた文学シリーズの集大成として企画。作品だけでなく人物の魅力を伝え、北東北の文学の奥深さを表現したことを説明。

●出席した委員からの意見

- ・重くなりがちな内容を大友監督らしいセンスでさらりと表現していた。
- ・“照れの無い人間は表現できない” “自分のことを表現して芸術になるのは稀” など、監督の発言ひとつひとつが心に残った。
- ・太宰治の遺作・未完で終えた『グッド・バイ』とうまく掛けているなど感心した。
- ・啄木と太宰治という異色のアイディア、旅人に文芸評論家ではなく大友啓史監督を起用したことで、適当に軽くそれでいて突くところは的確に的を得ていた。
- ・監督のマスクのデザインが個性的で、情報として視覚的に入ってきてしまうのが気になった。
- ・文章の朗読での感情移入過多は、それぞれが抱くイメージを壊す可能性がある。ナレーションのように淡々としたほうが好ましかったのではないか。

●委員からの質問、意見に対する会社側からの回答

- ・今後も様々な発想で、いろいろなものに取り組んでいきたいと思えます。
太宰は、出鱈目で狡猾な人間でないと小説家にはなれない、自分の兄のような正直で真面目な人には作品は書けないといった話をしてはいますが、そういう人の人物像を紹介できるような番組を今後も作って行けたらと思えます。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※令和3年7月14日（水） 産経新聞 東北版

※令和3年7月24日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送。

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

次回は、令和3年9月14日（火）12時よりホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 3階「星雲東の間」にて開催予定です。